

令和4年度「ベストプラクティス企業」職場訪問

～ 鶴信運輸株式会社の取組について～

目的・要旨

厚生労働省では、毎年11月を「過労死等防止啓発月間」とし、長時間労働が懸念される事業場に対する重点監督、過重労働解消に向けた気運の醸成のため種々の啓発活動を実施しています。

この期間中の取組の一つとして、長時間労働削減に向けた積極的取組を行っている企業を広く地域に紹介し、他の企業においても参考としていただきたいとの趣旨で実施しました。

今年で7回目となるベストプラクティス企業訪問は、岡山労働局長(成毛 節)と岡山運輸支局長(出口 敦)が合同で、労働時間削減に積極的取組を行っている運送会社を訪問しました。

訪問日 令和4年11月21日(月)

訪問企業 鶴信運輸株式会社

本社所在地 岡山市中区倉富394番地
代表者 代表取締役会長 岩木 信之
取締役社長 陰地 智行
創業 1992(平成4)年 7月
資本金 1500万円
従業員数 123名
業務内容 一般貨物自動車運送事業等



取り組み内容 「ドライバーを大切にし、長く勤められる会社となるよう安全で働きやすい職場の環境づくりを心がけております」

- ① 労働時間の削減の取組
 - ・スワップボディ車両の導入により、中継輸送を実施。労働時間短縮に効果。
- ② 年次有給休暇の取得促進(H30年度 16% ⇒ R3年度 52%)
 - ・年休取得の声掛けにより、取得しやすい雰囲気醸成。
- ③ 働きやすい職場環境づくり
 - ・休憩室に、高濃度酸素カプセル・健康器具等を設置。
 - ・国土交通省により創設された「働きやすい職場認証制度」を取得。
 - ・女性ドライバーが安心して働けるよう、女性トイレを増設。



Q スワップボディ車両の導入したことで、労務管理の面でどのような効果がありましたか？

A 車体と荷台が分離できるため、トラックが到着する前から荷役が始められます。



(中継輸送のイメージ)

国土交通省「スワップボディコンテナ車両活用促進に向けたガイドライン」

また、トラック到着後は、荷台を取り換えるだけで出発できるため、手待ち時間の削減に効果がありました。

さらに、長距離輸送から中継輸送への転換を進めており、日帰りでの運行が可能になることから、ドライバーの労務環境の更なる改善を見込んでいます。



Q 取り組んでいく上で、課題はありますか？

A スワップボディ車両は、購入して導入までリードタイムがあるので、対応には時間がかかります。

また、車両の導入コストが大きいことも経営上の課題としてあります。

Q 時間外労働の上限規制について、どのように考えていますか？

A 長時間労働の削減は、対応すべき重要な課題であると認識しています。

また、ドライバーの確保なしには、対応できないので、働き方改革にしっかり取り組んでいきます。



Q 人手不足の中、工夫されている点はありますか？

A 従業員の定着という点では、「従業員同士の仲が良い」ということも大事だと考えて、従業員のコミュニケーションの場として、休憩室の整備などに力を入れています。